

「学校・福祉・地域の連携による学習支援」

～すべての子供が夢と希望を持ち活躍する共育の推進をめざして～

田 原 市

1 事業のねらい

学習の遅れがちな中学生等を対象として放課後等に受講料無料の学習支援を行い、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力の向上を図る。

① 何らかのつまづきにより授業がわからなくなってしまった子供への学び直し支援をすることにより、基礎学力の定着を図る。

◎ どこを勉強したらよいかわからないという中学生を中心に参加を呼びかけて「学習教室」を開催し、苦手意識を取り除くことを目的とする。

◎ 進級が難しいと思われる高校生を中心に参加を呼びかけて「学習教室」を開催し、中退者や不登校生徒を減少させることを目的とする。

② 貧困な家庭の子供の学習支援等を行うことにより貧困の連鎖を防ぐ。

◎ 地域福祉課と連携して、生活困窮者自立支援制度に基づいた学習支援事業(スクールソーシャルワーカー設置事業)を実施し、家庭環境も整えながら支援する体制をつくる。

◎ 問題のある家庭の子供たちの学習支援を行うため、児童養護施設で「学習教室」を実施する。

※ 福祉部局と教育部局が連携することにより、それぞれの強みを生かして弱みを補完しあう体制を構築することを目的とする。

2 事業計画

(1) 受講生の募集について

◎ 中学校及び高等学校…学校に協力を依頼し、チラシを生徒に配布したり校内にチラシを掲示したりして募集。

◎ 児童擁護施設…施設職員から入所児童及び生徒に趣旨を伝えてもらい募集。

(2) 講師について

教員OBや学習支援の実績のある地域住民等を講師として実施。

(3) 開催期間、時間、参加人数等

実施場所	参加人数	実施期間	予定回数、開催時間等	
田原中学校	1年7人 2年9人 3年10人	5月19日 ～3月23日	31回、毎週木曜日の放課後1時間 夏季休業中は5日間	
東部中学校	1年8人 2年4人 3年9人	5月19日～ 2月23日	20回、毎週木曜日の放課後1～2時間 夏季休業中は7日間	
福江市民館	中学生	1年13人 3年1人	6月2日～ 3月30日	42回、毎週木曜日の午後5時以降来られる時間～午後7時
	高校生	10人程度	4月～3月	46回、毎週金曜日の午後5時～午後8時
赤羽根学園	中学3人 高校1人	5月22日～ 3月26日	42回、毎週日曜日午後8時～10時	

(4) 内容等

◎ 数学・英語を中心としているが、苦手な科目で教えて欲しい科目としている。

◎ 自学を基本にし、わからないところについて講師から教えてもらう。

3 事業の実際（実施状況）

◎ 初回に学習のコツについて説明をする。また、自分たちでルールを決めて学習するように指導し、主体的な学習ができるようにしていくため、それぞれの講師が工夫をしている。

- ・数学・英語… 自分が理解できていないところを見つけ、自分がわからなくなった学年まで戻って学び直しをする。
- ・社会・漢字… 自分の覚え方を見つける。繰り返して書くことにより目や耳で覚える方法や、内容を自分の考えでまとめることで覚える方法など、自分にあった方法を見つける。
- ・ルール… 入室したら友達とふざけたり、雑談したりしない。携帯電話等は触らない。

◎ 希望者を対象としているため、出席率は高い。



たはら地域未来塾の様子

4 成果と今後の課題

(1) 成果と課題について

- ◎ 参加している子供の評判は良い。勉強がわかるようになり楽しいという声が聞かれる。
- ◎ 定期テストの点数が上がったことにより、積極的に学習するようになった。
- ◎ 子供たち同士で教え合う姿が見られるようになった。
- ◎ 毎週1回・放課後概ね1時間としているが、学校行事等でできないこともあり、学習習慣の定着にはつながりにくいという意見もある。
- ◎ 希望者を募るため、学習が遅れがちな子供や貧困な家庭の子供の参加率は高くない。
- ◎ スクールソーシャルワーカーと連携した学習支援として実施しているが、問題のある家庭との関係づくりには時間がかかり、現在は未来塾参加につなげることまではできていない。

(2) 今後について

- ◎ 学習の遅れがちな子供を呼び込むための工夫、子供自身の意欲が出るようなしくみ、そして、子供たちが、自分のやりたいことを見つけて夢や希望を持ち、目標を達成するために頑張る力をつけていくことが必要。学校支援地域本部が実施している様々な事業と連携させる体制の検討をしていく。
- ◎ 貧困な家庭の子供の学習支援につなげるための検討、スクールソーシャルワーカーを中心として、学校・福祉・地域の連携について検討をしていく。

